



長照寺だより

わ げん あい ご 和顔愛語

浄土真宗本願寺派(西本願寺) 摂取山 長照寺 静岡県三島市徳倉1195-817 電話055-988-4242
URL <http://cyoshoji.or.jp> E-mail: info@cyoshoji.or.jp

東日本大震災によって被災された皆様に
心よりお見舞い申し上げます
また、この災害により還浄されました皆様には
心より追悼の意を表します
摂取山 長照寺

親鸞聖人750回大遠忌法要参拝 (門信徒会親睦研修旅行)



本願寺(西本願寺)御影堂内にて

～ 御影堂とは ～

御影堂は文永九年、東山大谷にあった「親鸞聖人」の墳墓を吉水の地に移し、廟堂を建て、ご影像を安置したことに始まります。

現在の御影堂は寛永十三年に建築され、親鸞聖人のみ教えを讃仰する私たちの心のふるさとであり、よりどころでもあります。



本願寺(西本願寺)御影堂外観
※写真左側の建物が御影堂



「自己矛盾との戦い」そして 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要参拝

住職 本持 愚山

三月十一日昼過ぎ、ご門徒さんとたわいのない話しをしていた。その時、いつもの揺れより長い地震。どこだろうと寺務所のテレビを付ける。すると目に飛び込んできた画面に一瞬釘付けになった。それは津波から逃げ惑う人や車、一体どうなっているのだろうと思いつつ、早く逃げなければ津波に飲み込まれてしまう。と画面を見てどうする事もできない自分。思わず寺務所の窓から駿河湾を見比べてしまう自分。今、現実起こっている想像もできない程の被害。為す術もない不甲斐なさの心にこの地方でなくてよかつたと画面を通して思う自分が居た。

東海沖地震があるぞと言われてもう三十年余が過ぎている。もしこの地方であつたならば、この画面と同じ様に沼津市は全滅、多くの方の命が奪われたに違いない。その後、時間が経つにつれて全容が明らかにされて行く。東日本大震災とありがたくも何もない名前が付けた。今更乍らではあるが、津波で命を亡くされた方々には追悼の意を表し、被災され、復興に向けて頑張っておられる方々には心よりお見舞い申し上げていかなばならないのです。

更にこの震災の後、世界各国から支援の

人々、物心両面に渡る援助の姿を見るにつけ、自分は何ができるのかと悶々としている時、再び目にしたテレビの映像、「心は見えないが、心遣いに見える。思いは見えないが思いやりは見える。」と言う公共の宣伝。そうだ実行する事で姿が形が見えるのだと気付かされた。そして被災地である仙台の別院へ。皆様からの義捐金を渡しに行かせて戴きました。

この様な未曾有の大地震が起こったのだが、今年親鸞聖人の大遠忌が営まれる年でもある。何年も前から計画を立て、全国のご門徒さんが参拝する事に心躍らされていく。風に便りでお勤めは難しいのではの風潮が当地まで届く。ご本山はどう対応されるのか、計画通りにお勤め



永観堂にての法話

されるのならば被災をされた方々の思いを受け止め勤修されるべきであろう。そんな事を考えている最中、参拝日を変更してのお参り、あるいは心情を感じて参拝を中止、などの情報が入って来るところで、ご本山は被災者の皆様の心に寄り添い、追悼法要も併せこの度の遠忌を勤修すると大変な苦慮のもと四月九日第一回目のご法要がお勤めされたのでした。

私達静岡東組もこの思いを受け計画通り九月十一日の参拝日には百二十余人余の方々と共にご勝縁に遇うことになりました。新しく生まれ変わった御影堂は当日の参拝者で満堂、堂内には参拝者全員でご和讃の声が響き何とも言えない厳かな気分を味わう事ができました。

こうして皆様と共に勤めさせて戴いた後は、かねて計画していた観光に気持ち改め、次の日京都市内の観光、三日目は奈良方面への観光を実施したのでした。特筆すべきは、京都の永観堂禅林寺への参拝です。中西法主のご法話に皆一同心が洗われた思いでした。人生訓として「あきず、あせらず、あきらめず」のお言葉に、被災地の方々に対する自分自身の心の持ちようを示して下さった思いでした。時の経つ早さには唯々驚かされるばかりですが、大震災を風化してはならず常に心配りを怠ってはならないと改めて気付きを感じさせて戴いた事です。今年は大変な年でした。自然の力を侮る人間にとつてもない試練を与え、命の重さや尊さを犠牲者の方々の分まで

感じいつて生きる事の大切さを知らされ、その心を大遠忌の参拝を通して確認させて戴く事ができました。三日間の旅行も無事終え、皆の笑

顔が何とも美しかった事か、益々お念仏の日暮らして生かされるている喜びを感じあいましう。
称名



「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要参拝」

門信徒会親睦研修旅行(門信徒のつどい)平成23年9月11日～13日

総代 (門信徒会会長) 高橋登志雄

正正の旗・堂々の陣、朝日に輝く掲げる旗は「長照寺門信徒会旗」。三島駅に集合した東京教区静岡東組の大集団を率いる総大将、善教寺土山住職組長の挨拶より行動開始。

〈9月11日研修第一日目〉

「親鸞聖人750回大遠忌法要」

今回の本番大遠忌法要は如何でしたかと聞かれても、有難いというよりは、ただただ暑い苦行でしたとしか言いようがない印象が先立つ。なにしろ全国から集まった門信徒は当日の午後だけでも3,000人以上が一堂に詰め込まれ、もちろん冷房無し気休め程度の扇風機のみ。だがご法要は大大鼓?の音を合図におねりが始まり、一糸乱れぬ僧侶方々のお勤めと参拝者の聲明は大変すばらしいと感じた。

そして、長照寺門信徒として誇らしくまた自慢とすべきは、東京教区門徒宗会議員を務める桑原明文総代の存在である、法要の主催陣の役員として服装は袴に袴、頭上にはとりえ帽子を戴き、最前列で威風あたりを払うの感じであった。

〈9月12日研修第二日目〉

「永観堂参拝と法話」

浄土宗西山禅林寺派総本山永観堂禅林寺(863年創建)は秋の紅葉でも有名であるが、第90世法主中西玄礼下が夏の間池畔で朝7時から法話をされることで評判が高い、また、みかえり阿弥陀の物語でも有名である、1082年永観律師が夜を徹して念仏行に励んでおり東の空がしらじらと明け始めたとき、ご本尊が段から降り立つて立ち止まった永観を振り返って穏やかな微笑みで、励まされたそのままの姿が仏壇の横の扉から有難く拝観できる。

中西下が私たちのためだけに感銘深い法話をいただくことができた、まず南無阿弥陀仏と念仏を唱える心構え、繰り返し念仏を唱える意味、毎日何千回、何万回とナモアミダブツを唱える

ことにより精神の統一、無我の境地に到達する素晴らしさを説く。

次に仏の宿る家庭の感動的なお話である。頑固で口



永観堂みかえり阿弥陀



桑原明文総代縁儀 (おねり)

うるさい舅が病気で入院し嫁が介護をするようになった、ある日舅が急に具合が悪くなり戻しそうになつた、あわてた嫁が両手を差出し「さあお父さん私の手の中へ出しなさい」しかし舅はぐつと我慢した、それを見ていた孫娘は私もお手伝いすると小さな手を差し出した、後からそれを聞いた主人が帰宅して妻に正座して深々と頭を下げ心から「どうも有難う」と感謝の言葉を述べた。

私たちもこの法話に感動しハンカチを取り出し目頭を押さえる事になった。

「真言律宗総本山 西大寺拝観と大茶盛式茶会」
765年孝謙上皇の発願で創建され、東の東大寺、西の西大寺と並び称された寺院で壮大な伽藍を持つ南部七大寺の一つに数えられた名刹である。現在は山号を勝宝山、本尊は釈迦如来である。

楽しみにしていた西大寺大茶盛式の茶会は正に度肝を抜かれるスケールであった、風炉(高さ36cm周囲147cm)茶碗(高さ21cm口径36cm)お茶を頂くときは顔がすっぽりと茶碗に隠れ写真撮

影は不可能、茶筥（高さ36cm）竹箒の如し、棗（高さ22cm 周囲70cm）抹茶の容量1.1kg、建水（周囲113cm）水瓶も顔負け。門徒一同特別美味なお抹茶を2回3回もガブ呑みで大満足。

大茶盛式の由来は1239年菩薩流歳首御修法を行い、玉体安穩、万民豊樂を祈願し、16日の結願に八幡宮に献茶を行い、雲集する衆生に茶を振る舞ったのが始まりである、当時の大衆はお茶など貴重で減多に口にすることが出来なかつたので大変な御馳走でありまた由緒ある行事であつた。

〈9月13日研修第三日目〉

「法隆寺拝観」

聖徳太子ゆかりの法隆寺は世界最古の木造建築で世界遺産にも登録されており、また二万円札の聖徳太子でも私たちになじみが深い。

寺の創建は607年で飛鳥時代の建築物を見ることが出来き、ほとんどが国宝に指定されている。特に私の興味を引くのは昭和の大修理を担当した棟梁で宮大工の西岡常一（紫綬褒章・瑞宝

章受章）と彼の祖父父親の三代にわたる物作りにたいする哲学と、代々受け継いだ西岡家の家訓である（口伝）

昭和の大修理は昭和9年に始まり昭和60年にようやく完成した大事業である、金堂・五重の塔・諸堂の解体大修理が実施された、西岡棟梁は常に木と対話しながら仕事をする。また飛鳥時代の職人から学ぶ、飛鳥や奈良・平安時代の技術者や職人は日本人とは限らない、なぜなら法隆寺は高麗尺（朝鮮半島）葉師寺は唐尺（中国の唐）を使っているからだ。

「西岡家の口伝」

木を買わず山を買う。塔組みは木組。木組みは木の性組み。木の性組みは人組。人組みは人の心組み。人の心組みは棟梁の職人への思いやり。職人の非を責めず己の不徳を思え。仏法を知らずして堂塔伽藍を論ずべからず。天神地祇を拝さずして宮を口にすべからず。

法隆寺大工は太子の本流たる誇りを心奥にもて。長照寺門信徒会の組織作り、運営の在り方に

「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」に

参拝する機会を得て

門信徒 佐藤勝彦

今回、「大遠忌法要」参拝の機会を紹介いただいた、長照寺住職にまず、心から御礼を申し上げます。

今年七月二十日、妻が、お浄土へ往生いたしました。人の「いのち」のはかなさ、もはや語

る事も無い妻の遺影を見て、何気なく共に生活していた日々が二度と帰ってこない貴重な時間であったとは、まさに人生は一期一会である事を深く知らされました。夫婦となり会社を立ち上げ共に苦勞してきた大切な人と二度と会えな

大変参考になる、門信徒会の皆さんはそれぞれ生まれも、育ちも、経歴も、身分も異なる、木に例えれば山の頂上で育った木、山すそに生えている木、南側の木、北側の木等それぞれ太さも硬さも曲がり具合も違う、このような門信徒の方たちを木組み・性組み・人組み・心組み等で如何に上手に組み合わせながら住職の導きで仏の世界を作るかで門信徒の誇りが育つてゆくことになる。

法隆寺の仏像は日本最高の仏像を数多く誇っている、国宝だけを数えても釈迦三尊像・葉師如来座像・阿弥陀三尊像・四天王立像・毘沙門天・吉祥天立像他9点に及び重要文化財指定像が多数保有されている。その他、絵画・彫刻・工芸品・古文書等驚嘆するばかりである。

こうして、三日間の行程は事故もなく、無事に終え大遠忌はもとより、古刹名刹の寺院拝観も私にとって久々に我を取り戻す事ができた。心よりお礼を申し上げます。 合掌



法要風景（縁儀）



法要風景（お勤め）

い身になってしまったのです。遺影を見て、仏壇の前で泣きました。しかし、

泣いても妻は帰ってきません。今は追悼をしてやること！、住職に教えられ、今まであげたこととの無い「正信偈」「讚佛偈」「重誓偈」を毎日、朝、晩あげているうちに、だんだん心が安らぐようになりました。

九月四日満中陰法要の折、住職から「大遠忌法要」に行かないかとお誘いを受け、自分のこれからの、有様を考えていた時でもあり、応諾しました。

我が佐藤家は浄土真宗を信仰しておりますが、私自身今までほとんど正面から向き合つた

ことがなく、親鸞聖人の事など全然知識がありませんでした。くしくも、妻の往生により、一気に信仰の尊さ、奥の深さを知りかけた時でしたから、胸の高鳴りを覚えつつ参加させていたできました。

九月十一日、午後一時三十分、本願寺の御影堂門を通り、御影堂、阿弥陀堂の荘厳さに心を打たれ、歴史の重みと、威厳に満ちたその壮大さに感動しました。法要の始まりの雅楽の神秘さ、一緒に勤めさせていただいた「宗祖讚仰作法」、妻の遺影を抱きしめながら感動で涙が止



全国仏教壮年会大会

(親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念)

多聞会(長照寺仏教壮年会) 副会長 藤澤 博

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要記念・第二十回全国仏教壮年会が、九月三日に京都本願寺御影堂にて開催され、私も長照寺壮年部の一員として参加させて頂きました。

当日は、台風12号が四国・関西方面に上陸という状況の最中で早朝、寺に集合した時まで中止になるのではと気をもんでいましたが、台風にも負けず!? 決行とのことで長照寺参加者三名は決死の覚悟で寺を出発。

暴風雨の中、何とか無事に京都に到着。当初は全国から二千三百名程の参加が予定されていた様ですが、いかにせん最大級の台風上陸という悪天候のため不参加を余儀なくされた方々も四百名近くおり、最終的に千九百余名程の参加

人数となりました。とは言え、この悪条件の中、これ程の大勢の参加で会場は熱気が満ち溢れ、御影堂にはクーラーもないため、異常なまでの暑さで、まるでサウナにでも入っている状況でした。

しかし、去る三月十一日に発生した東日本大震災により、一万五千名をも超す尊い命が失われ、未だに行方不明の方々も多数おられる現状を考えますと、今回の大会のスローガンである「世の中 安穩なれ 仏法ひろまれ」、テーマである「朋友の輪を拡げよう」という内容は、日頃なおざりになりがちな事を改めて考えさせられる機縁となりました。

私共は、命の尊さやお互い助け合い、支え合っ

まりませんでした。暑さを忘れお勤めに集中した事に我ながら感動しました。

しかし考えて見ますと親鸞聖人の事、浄土真宗の事、私自身何も知りません。お恥ずかしい限りです。門信徒一年生ですが、親鸞聖人によって開かれた浄土真宗の教えを一生懸命勉強し、真の門信徒になるべく精進する覚悟です。

今回お世話いただいた長照寺住職他皆様方、参加された門信徒会の皆様方に心から御礼申し上げます。有難うございました。 合掌



仏教壮年会法要風景

て、生かされていること今一度噛みしめ、感謝する心を大切にするこの重要性に気付かされました。

今回の大会は、最大の意義を一人でも多くの方々へ念仏の輪を拡げて、心豊かに生きることでできる社会を目指すという点であったと、自分なりに解釈し、朋友の輪を拡げる活動に取り組みたいと思いました。

今、苦境の日本は、厳しい現実の私達だからこそ、「仏法ひろまれ」が大切なのではないでしょうか。 合掌

活動報告 平成二十三年度上期

※平成二十三年三月十一日（金）に発生した東日本大震災の影響を受けまして、被災地域の方々への配慮、電力不足による計画停電等をふまえ、お寺として熟慮した結果、四月に予定されていた諸行事におきまして、中止および延期をさせていただきますました。

第六次門徒推進員養成連続研修会（第三回目）

平成二十三年二月二十六日～二十七日：築地本願寺

親鸞聖人の教えを学び、実生活に生かすための研修会です。



春季彼岸会法要 平成二十三年三月二十日：一〇〇余名

ご講師 高松 俊景 師
京都「中央仏教学院」ご講師の先生のご法話を聞きました。



門信徒会定期総会

平成二十三年五月一日

：八〇余名

おかげ様で、各議案ともご承認いただきました。

第三十三回門信徒会親睦チャリティゴルフコンペ

平成二十三年五月十九日
：三島ゴルフ倶楽部

優勝 髭 数久さん
準優勝 近藤 勝信さん
第3位 石原 勝美さん



第八回門信徒会親睦チャリティボウリング大会

平成二十三年五月二十九日
：ジョイランドみしま

優勝 荻田 初子さん
準優勝 引木 朝子さん
第3位 髭 英子さん



東京教区仏教壮年会研修会 平成二十三年五月二十九日

：築地別院

先輩方々を敬いながら、若い者とも共生きの強化団体です。

静岡東組組会・総代研修会 平成二十三年五月三十一日

：長照寺

静岡東組の組会・研修会が、当寺にて開催されました。

三島末広山墓苑総廟（共同墓）落慶法要

平成二十三年六月二十五日：三島末広山墓苑内

三島末広山墓苑内に総廟（共同墓）が完成し、法要を勤めました。

※写真は12ページ

境内清掃作業・親睦懇親会

平成二十三年七月二十四日

…一〇〇余名

作業終了後のスイカの味は格別でした。



合同盆法要（全八回）

平成二十三年八月十三～十五日

…二二〇家族

六五〇余名

ご先祖様曰く「皆が元気でうれしいよ。これからも頑張つて楽しく生きてほしいな…」

初参式

誕生の歡びを仏様に報告し、感謝するお参りです。

平成二十三年八月二十八日

杉山 勘太君

※平成二十三年五月二十四日生

平成二十三年十月二日

大橋 花香ちゃん

※平成二十三年六月十九日生

※写真は12ページ



全国仏教壮年会大会（親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念）

平成二十三年九月三日 …本願寺（西本願寺）

先輩方々を敬いながら、若い者とも共生きの強化団体です。

※写真は5ページ

くわ入れ式 平成二十三年九月十日

株式会社 エスイーアイ

従業員の皆がきつと喜び、

益々会社が発展しますように…



「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」

門信徒会親睦研修旅行（門信徒のつどい）

平成二十三年九月十一日～十三日…本願寺（西本願寺）・京都・奈良

長照寺だけでなく、静岡東組内7カ寺（総勢二二〇余名）の皆さんと一緒に、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要参拝および京都・奈良

への研修旅行をしてきました。

※写真は表紙、1～4ページ

秋季彼岸会法要

平成二十三年九月二十三日

…一四〇余名

ご講師 当山住職

裏千家淡交会青年部の

皆様のご協力のもと、

お呈茶をおこないました。



七五三参り（恵みのお参り）

「命のつながり、命の尊さ」を伝えていくお参りです。

平成二十三年十月二日

大橋 凛太郎くん

※平成二十年五月六日生

大橋 こあちゃん

※平成二十年十二月二十九日生

※写真は12ページ





「東日本大震災」

衆徒 本持信宗 のぶ たか

三月十一日、私は埼玉県にある病院のベッドに怪我の治療の為入院していました。昼食を終え部屋でテレビを観ていると、とてつもない揺れが私を襲った。地上七階のためか尋常じゃない揺れである。私はベッドに乗ったまま、右へ左へ、窓も左右へガシャガシャと音を立て、部屋に置いてあった机の引き出しは飛び出してしまった。いよいよ建物が崩れてしまうのではないかの恐れの中で、何もできないまま揺れが治まるのを待った。どの位の時間揺れていたか分からないが何とか揺れは治まった。少し気が落ち着いていた私は松葉杖を



称法寺の風景



称法寺周辺の風景

突きながら避難しようと同じ階に入院している方々を誘いに行った。しかし、私達が入院しているのは整形外科で、自力で歩ける人は入院していませんでした。結局避難するには人手が足りないとの事で病室待機となった。そしてお年寄りの方々に声をかけ、安全だけを確認しながら病室に戻り、またテレビを観た。すべての番組が地震関連のニュースに変わり津波警報がでていた。すると次々と信じられない映像が映しだされ、地震による火事、地割れ、土砂崩れ、一番衝撃的だったのが津波だった。地震後も入院生活だったのが十分にニュースを観る時間と考える時間があつた。そんな中ひそかに、この地震で避難したいと

言っていたお年寄りに何も出来なかった自分、ただテレビを観ているだけで動けない自分に歯がゆさを感じながら、足が完治したら必ず何か出来ることをさせてもらおうと心に決めていた。

五月、ようやく足が完治した。私は治療中何か出来る事をしたいと考えていたので、浄土真宗本願寺派東北教区ボランティアセンターへの参加を決めた。早速参加申し込みをし、いざ東北へ。車は自家用車より便利な軽トラック。都心を抜け東北自動車道を車で走っていると、徐々に震災の影響がでてき始めた。警察や自衛隊の特殊車両が被災地へ近づくとつれ増え、高速道路は多くの箇所で隆起していた。しかし、ニュースで観ていたよりも、その時は悲惨ではなかった。震災から二か月も経ったので少しは状況が良くなっているのかと思った。高速道路を抜けて山を抜け、沿岸部へ出ると、とんでもない思い違いであったことに気付かされた。見渡す限り何もない場所、原型を留めている建物は一つもなく、おそらく私の眼前には街があつたのではないだろうかの想像はつくが、あまりに衝撃的な景色のため言葉も出なかった。

私のボランティアセンターでの主な活動は流入物撤去作業と支援物資搬送である。流入物撤去作業は主に宮城県石巻市にある称法寺というお寺の墓地に流れ込んだ物を片付ける作業です。とてつもない量の流入物で、終わりの見えない状況に言葉すらない。この辺りも津波の被害は甚

大で、だいぶ日は過ぎていますが津波が襲ってきたばかりかのように思えた。作業をしている中でテレビの映像では伝わってこないこの地こそまさに現実である。墓地で作業していると多くのご門徒さん方が自分のお墓がどの様になっているのか気にされて訪れてきた。その都度ご門徒さんが地震の話、津波の話聞かせてくれた。どの話も聞くに堪えられない内容で、私はうなずきながら話に耳を傾けるだけだった。そして心に寄り添えるような言葉も掛けられない自分の無力さを痛感した。支援物資搬送は色々な場所にある避難所へ運ぶという内容なのだが、これにはショックを受けた。なぜなら、避難所によって物資の格差が生じていたからだ。大規模な避難所は行政や自治体から沢山の支援を受けていたが、小規模な避難所には全くといっていいほど支援の手が伸ばされていなかったのだ。そこで私はなるべく小規模な避難所を回る事にした。そこは十分な食料がなく、生活必需品も不足していた。私たちがボランティアセンターから持ってきた物資は幾つかの避難所を回ったらすぐに底をついた。この



称法寺周辺の風景



合掌

ように三週間程奉仕をさせていただいた中で、私がつとも心に残った言葉がある。それはある避難所の代表の方が、「どうか無理のない支援をよろしく願います、無理をするとどうしても長くは続きません。太く短くではなく、細く長くの支援をよろしくおねがいます。」まさにその通りだと思った。この未曾有の大災害は復興にとつともない長い時間がかかるだろう。昨日今日で終わる様な問題ではないのです。私は避難所の方がおっしゃっていた細く長くの精神でこれからも東日本大震災に長く向き合っていきたい。

「東日本大震災をうけて」



衆徒 藤澤直樹

去る平成二十三年三月十一日、日本有史において未曾有の大災害が発生した。「東日本大震災」である。テレビ等の映像を通じ、とてつもない事態であると感じるとともに、何とか力になれないものかと、いてもたってもいられず、六月の末に一週間という短い期間ではあったが、浄土真宗本願寺派（西本願寺）東北教区災害ボランティアセンターへ登録をし、奉仕活動に参加させていただいた。

私が主に活動した内容は、津波による甚大な被害をうけた仙台市より東の海岸の町、七ヶ浜町にて、家屋の解体作業および、海岸に残る流入物（がれき）の撤去作業。また、石巻市内にある、称法寺しょうぼうじという同宗派の寺院境内に残る流入物の撤去作業等であった。

当初、私が奉仕活動に参加した時期は、すでに震災発生後三カ月が経過しており、直前のテレビ等を見る限りでは、復興へ向けてという特集等も流れていたため、だいぶ落ち着いてきたのかなという気持ちもあつた。ところが実際被災地へ入り奉仕活動を始めると、映像には映らない今 دستつかずの街並み。そして街の音（声）において、

雰囲気等。ありとあらゆるものが衝撃であり、「言葉が出ない」とはまさしくこのことであろうと実感した。

七ヶ浜町において一軒の家屋解体作業中、床下から泥まみれになった数冊のアルバムが見つかり、家族のいろいろな写真が見つかった事。石巻市においての作業終了後、高台にある日和山公園から見た、津波で壊滅状態となった石巻市内の風景を見た事。それら以外にも数多く傷痕は残されておられ、衝撃を受けると同時に、復興までの道のりは極めて長いと想像できた。それは、被災者の方と会話をさせていただいた中で、「奉仕活動は決して無理をせず、一度に大人数でなく少人数でも良いから、細く長く続けてもらいたい。また、被災地の事を忘れないでほしい。」という言葉



七ヶ浜町の海岸 (菖蒲田浜)



家屋撤去中の風景 (七ヶ浜町)

いたことにより感じる事ができた。まさしくこの言葉に被災者の思いが集約され、物的支援はもとより、人的支援等復興に関わる全ての支援は、長期にわたる協力が必要であると痛感した。

最後に、この奉仕活動は、私の心を見つめ直す場でもあった。それら衝撃の光景を目の当たりにしつつも、「少しでも力になりたい」という想いと、「私の身でなくて良かった…」という醜い想いを覚えたことも事実としてあり、私の心の弱さを目のあたりにした。常に人のために寄り添える人間になれるよう日々精進しなければと改めて感じ、まずは被災地の復興のため、少しでも尽力していこうと思う。募金活動も一つであろう、再び奉仕活動へ行くことも一つであろう。被災地へ行けないときはこちらで東北の物品を購入するの

も一つであろう。何か出来ることがあるはず。
「細く長く、そして忘れず」被災された方々へ寄り添っていきたい。

合掌



石巻市内風景 (日和山公園より)

今 後 の 活 動 予 定

平成23年

| | | |
|-----------|-----------------------|-----------------|
| 10月31日(月) | 門信徒会親睦チャリティ ゴルフコンペ | 大熱海国際 ゴルフクラブ |
| 11月20日(日) | 報恩講・座談会・茶話会 | 本 堂 |
| 12月 4日(日) | 境内清掃作業 | 境 内 |
| 12月31日(土) | 除夜会 | 本 堂 |

平成24年

| | | |
|----------|------------|-----|
| 1月 4日(水) | 修正会・新年会 | 本 堂 |
| 3月20日(火) | 春季彼岸会法要 | 本 堂 |
| 4月 1日(日) | 寺報(第27号)発行 | |

※各行事は、予定ですので、その都度、寺から案内を送付します。
 ※定例法座は毎月第1土曜日 午後7時より本堂にて開催。
 ※その他に親睦の集いを募集・計画中。

（日頃の忙しさから解放されて
 気持ちが軽くなる自分を発見
 できるかもしれません。）

東日本大震災における義捐金のご協力、

誠にありがとうございました

皆さまからご協力いただきました。門信徒会からの義捐金100000円、寺務所募金箱への義捐金158823円、合計258823円(平成二十三年六月二十六日現在)を平成二十三年六月二十七日、本願寺仙台別院(東北教区教務所)へ、住職が直接届けてまいりました。

皆さまのご協力、誠にありがとうございました。
 なお、募金箱はまだ寺務所にごさいますので、引き続きのご協力のほど、よろしく願います。

また、長照寺衆徒2名、本持信宗が5月、藤澤直樹が6月に、浄土真宗本願寺派(西本願寺)東北教区災害ボランティアセンターへ登録をし、奉仕活動へ参加してきました。8〜10ページにて報告させていただきます。

| | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|---|---|--|--|
| 領 収 書 | | | | | | | | | |
| No. 127 | | | | | | | | | |
| 東京教区 静岡東組 長照寺 様 | | | | | | | | | |
| 金 額 | ¥ 2 5 8 8 2 3 | | | | | | | | |
| 但し 平成23年(2011年)東日本大震災義援金として | | | | | | | | | |
| 上記金額正に領収いたしました | | | | | | | | | |
| 2011(平成23)年 6月 27日 | | | | | | | | | |
| 内 訳 | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>現</td> <td>金</td> <td>振</td> <td>替</td> </tr> <tr> <td>郵</td> <td>便</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 現 | 金 | 振 | 替 | 郵 | 便 | | |
| 現 | 金 | 振 | 替 | | | | | | |
| 郵 | 便 | | | | | | | | |
| | 取扱者印  | | | | | | | | |
| 仙台市青葉区支倉町1番27号 東北教区教務所 TEL 222-8567・FAX 261-7296 E-mail honganji@topaz.daijingu.or.jp | | | | | | | | | |
|  | | | | | | | | | |

平成23年度上期の行事

三島末広山墓苑総廟(共同墓)が完成いたしました

昨今の核家族化・少子化に伴う様々な事情等によって、「お墓」について不安を感じている方々からご相談をお受けすることが増えてきています。そのような方々の今後のご不安を解消させていただくため、このたび三島末広山墓苑内(長照寺墓地)において、『三島末広山墓苑総廟(共同墓)』を建立いたしました。詳細等は、お寺までご連絡ください。



初参式(平成23年8月28日)
杉山 勘太(かんだ)くん



七五三参り(平成23年10月2日)
大橋 こあ ちゃん



初参式(平成23年10月2日)
大橋 花香(はなか)ちゃん

七五三参り(平成23年10月2日)
大橋 凜太郎(りんたろう)くん

心の窓を開く

ラジオ法座

FM三島函南 77.7MHz

毎週水曜日

お話/当山住職

朝7時45分(5分間)

●法話をまとめた小冊子第1~5巻が
発行されています。
お尋ねください。

編集後記

- ☆お寺からのお便りは、家族皆さん必ず読んで頂く習慣をつけましょう。
- ☆お寺は「よろず相談処」です。
日頃悩んでいる事がありましたら、何でもご相談ください。
- ☆次回寺報は、平成24年4月1日発行予定です。

●ご意見・ご要望は、寺務所まで
〒411-0044三島市徳倉1195-817
TEL・FAX 055-988-3900
編集人=長島・菊沢・斉藤・園田